



中讃第2支部 100ヶ月連続入会達成記念 歴代支部長座談会

『仲間づくりの意義について』

【出席】中讃第2支部歴代支部長

第34・35期支部長

小西 啓介 氏
㈱ウエストフードプランニング

第36・37期支部長

元谷 大平 氏
㈱元谷工業所

第38・39期支部長

吉田 尚樹 氏
㈱ビルド

第40・41期支部長

小林 耕司 氏
㈱小林塗装店

第42・43期支部長

森山 竜志 氏
㈱興栄企画

【司会】

広報・情報化委員会 委員長

渡辺 功一郎 氏
ダイレクト㈱

動画はコチラ



動画 撮影協力
渡辺 康平 氏
(高松第8支部)

渡辺 本日は100ヶ月連続入会を達成した中讃第2支部の歴代支部長の皆さんにお集りいただきました。早速ですが、100ヶ月連続入会の始まりはどなたが支部長の時からですか。

小西 私の時です。東京で開催された全国総会の分科会で、阪神支部の報告者が同友会の会員数の伸びと自社の売上の伸びが見事に比例しているんだという話をしました。それに刺激されて、一緒に参加していた幹事長の吉田さんと、あの支部を超えるような日本一の支部をつくらうと誓い合い、まず連続入会から始めようということになりました。その月から8年余り連続入会が続いています。

渡辺 すごく記録ですよ。

小西 ただ、単純に連続入会や会員数を増やすことはあくまでも手段で、必要とされる支部にならないといけないと思えました。今、掲げている支部の理念は、『元氣な企業づくりで地域の安定と発展に貢献する』ですが、この支部が会員さんにとっても、地域にとっても必要とされる支部になるのが目的です。共に学び合っ
て切磋琢磨し、皆が優良な企業になっていき、雇用を生み、税金を納めるために、会員さんを増やしていくという思いを、皆が汲んでくれて連続入会に繋がっていったと思います。

渡辺 ところで、小西さんからバトンを渡された元谷さんはどうでしたか。
元谷 副支部長の時は正直、理念を理解

しきれないなかつたと思います。変わったのは支部長になってからです。こういう支部になりたいと思つた時にハマつたのが理念です。100カ月続いたのは本当に皆の力です。無理かなと思つたことは何度もありましたが、必ず誰かが助けてくれました。

吉田 支部の立ち上げ当初は支部理念を作るのに週に何回も集まつて、本当に真剣に支部の方向性と、中讃第2支部が今後生まれ変わっていくために何をしたらいいのかと、徹底的に作り上げていきました。最初は形だけやったのが、やりたいたことがどんどん実現していき、それが100カ月連続入会に繋がっているとあります。

渡辺 8年の間に入会した人も次々に役員になっていくのです。

小林 100カ月連続の中で入会した人で執行部に入った人はたくさんいます。

森山 中讃第2支部の場合は組織として、同じ理念のもとに幹事長をやれば副支部長をして支部長をするという階段が今のところは続いているので、取組みが途切れていないです。幹事長の時にやっていたことを副支部長、支部長になつても続いていることが、100カ月続いた一番の理由でもあるし、組織経営的なところが上手くいっていると思います。

吉田 支部長が代わつてもリセットしない強みがあるし、理念も変わらないし、200名を超えても変わらずに長期ビ

ジョンを追っていけることに關しては、小西さんのときから一本の道筋が通っている感じはします。

渡辺 定着率はどうですか？

吉田 一時期、入会した若い会員さんがどんどん辞めていったのですが、それは新入会員のサポートが出来ていなかったもので、仲間ができないまま退会していきました。そこで3カ月参加の新入会員のオリエンテーションを支部内で立ち上げました。そのサポートを始めてからだんだん退会率が下がってきたと思います。**渡辺** 仲間づくりで大変だったことはありますか。

小林 私が支部長の時に全国大会があり、仲間づくりに苦労しました。目標には達成できなかったのですか、たくさんの人に入会してもらつていく中で、変わったなと思つたことがあります。50ヶ月ぐらまでは反対している人が支部の中にいました。理念がなかなか浸透しなかつたせいもありますが、それが折り返しを過ぎたぐらいから「なぜ100カ月やらないといけないのか」と言う人がいなくなりました。それから、100カ月連続入会の中で入会してくれた人が、新しい人を連れて来てくれるようになっていきました。大変でしたが、そんな変化も感じられたのは良かったと思います。

吉田 上げ潮ブームをつくつたのは、元谷さんです。実際に元谷さんの時は支部の会員数も増えていきます。危ないながらも、やった功績はすごく大きい。それまでは自分達さえ良かったらいいという考えでしたが、ゲストさんのことも考えたり、いろんなところが良くなつていったと思います。たぶん、私の時ぐらまでは、役員がメインで仲間を増やしていた感じでしたが、小林さんぐらいから、新しく入った会員さんがゲストを連れて来てくれるとか、いい循環が生まれたと思います。私の頃は、頑張つてゲストを見つけて来たりしていたので結構大変でしたけど、今は会員さんがどんどん自然に増えてくるような形になっていると思います。



小西 連続で続いている理由で、さつき理念の共有や浸透の話がありました。それからもう一つ、この全員が納得して領いてくれると思いますが、基本に忠実にやっただけです。役員研修会を何回も開いて、例会や役員会のつくり方から、それぞれの役割は一体何のために存在しているのかというところまで全部学び直して、それを頑なに基本に忠実にずっとやり続けてきているから、やっていることが少しずつ積み重なっていったと思います。それが3世代を超えた時にやると、一つの基本に忠実である中讃第2支部の骨格みたいなものができ、小林さんの体制になった時に一般の会員さんたちが、同友会は勉強できるいいところと実感できたのだと思います。だからこそ、一般の会員さんがどんどん新しい会員さんを入れて来てくれるようになったと思います。理念の浸透と基本に忠実にやっただけという、この二つだと思います。

渡辺 理念があつて、基本的に何の仕事をするのかというところが明確になり、組織的にちゃんと動けるようになる。そして、自然と会員さんが増えていくという流れができ、これからは森山さんから次の支部長にバトンタッチされるわけですね。

元谷 この流れは自分たちが新たに考えて作ったものではなくて、『同友会運動の発展のために』に書いてある通りだと改めて気づいたのです。

小西 じっくり読むと、あつ、このままやったらええんや」と、目指すゴールが見えたのです。

吉田 最初は何が同友会かわからないようになり、矢野相談役に相談しました。「お前これ読んだことがあるか」と言われ、「ないです」と答えると、「ないのに役員になつとんか」と言われました。そして読み始めると、ああ、なるほど」と思い、小西さんにこれを研修会に使用したいと相談し、まずは読み合わせをしようというのがスタートでした。

渡辺 ところで、もともとは小西さんが全国大会に行つて学んできたことを



支部に持ち帰ったところから始まったわけですが、中讃第2支部の人は全国大会の参加率が高く、若い会員さんがほとんど全国大会に行っているイメージがあります。

森山 そうです。年間の参加目標をたてていますが、執行部はとくに3大会に関しましては、できれば一緒に行こうとお誘いしています。

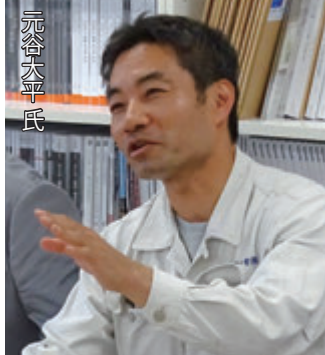
吉田 役員同士で全国大会に参加するというのは大きな学びがあり、とてもメリットがあると思います。

元谷 逆に県外の支部に報告者として呼ばれることがあつて、そこでいろんなことを学んで帰つて来ることがあります。

渡辺 香川同友会全体の仲間づくり活動についてはどう考えますか。

小西 数を追うことはすごく大事だとは思いますが、ただ当時のうちの支部がそうであつたように、中身が育っていないと、同友会の存在価値や意義などがなかなか伝わらないと思います。もう少し質というところとしっかり向き合つて、それを高めていく努力はしたほうがいいと個人的には思いますが、皆さんどうですか。

吉田 組織委員長をやつていて、各支部の例会のつくり方や支部のレベルは上がつていると思いますが、ただ全国大会を誘致して、多くの会員さんを入れても、退会の防止策という細かいサポートが不足しているような気がします。支部に



よってそれぞれに色があるのはいいと思いますが、同友会の基本から外れていくという厳しい部分もあるので、基本に忠実に色が出せるような体制と、毎月コツコツと入会してもらうことによって、どこかに踏ん張りが効いて、最終的な目標に上げようというときにステップアップできると思いますので、地道に積み重ねていくこと。それが基本的にずっとできていければいいと思います。

渡辺 そういう体制づくり、質を上げると共に長期的に会員数が増えていく取組みとして、今期から『仲間づくり推進本部』ができたわけですね。ところで、今後はどんな活動の予定ですか。

できればと思います。また広報・情報化委員会と一緒にやっているので情報発信をやってもらい、自分たちも係わっているという意識を持ってもらえればいいと思います。

渡辺 最後に同友会の良さ、仲間づくりの良さについて一言づつお願いします。

元谷 私が支部長をやらせてもらった時に、すごい例会をつくって、スーパースターみたいな報告者と呼んだら入ってくるのと最初は思いました。ところが実際は違いました。やはり支部内や県内の仲間が報告者になって、自分らの企業がよくなっていくというのが、周りへの刺激が大きいいし、それが一番だと思います。

吉田 うちの支部の執行部は、他の支部よりも自分らは成長しないといけないという使命を背負って格闘している方が多いと思います。そんな中で成長していったのが歴代支部長だと思います。

小西 入会して15年目になりますが、同友会に入って良かったと今でも思います。なぜかといいますと、とにかく積極的に係わることでいまままで近づき難いと思っていた人達と仲良くなり、成長のための情報がどんどん入ってきます。出

会った人には初めてであろうがなからうが全員に名刺を配るぐらいの気持ちで、積極的に係わるのが最初の段階では必要なことだと思います。

小林 私が経営者として最初に入った会が同友会ですが、今でも入って良かったと思っています。経営者として必要な理念だったり、覚悟であったりなど、基本的なところの全てを教えてもらえる場所だからです。

森山 100カ月連続入会を1月に達成しましたが、これからどうするのかとよく聞かれます。うちの支部としては仲間づくり活動を毎月継続し、その結果として150カ月とか200カ月が付いてくるだけなので、これは当たり前のように支部の中で毎月やることという位置づけで、ずっと続けますと宣言していますので、今後も連続入会を続けていきたいと考えています。

渡辺 ありがとうございます。本日は、香川同友会の中でも非常に先進的で模範的な活動をされている中讃第2支部の100カ月連続入会、そして仲間づくりについていろいろとお聞きしました。貴重なお話、ありがとうございます。